

第一三共株式会社

〒103-8426 東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号
http://www.daiichisankyo.co.jp/

〈お問い合わせ先〉 コーポレートコミュニケーション部 TEL.03-6225-1126 FAX.03-6225-1132




株主の皆様のお声を聞かせてください


下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。
●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード **4568**

いいかぶ **検索** Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、「いいかぶ」と4文字入れて検索してください。

 空メールにより URL自動返信 kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

 携帯電話からもアクセスできます QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



ご回答いただいた方の中から

- ① 抽選で30名様に 当社製品「クリアレックス(200ml)」
- ② 抽選で薄謝(図書カード500円)

上記いずれかを1つ進呈させていただきます。



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

「おっ、第一三共」

またもや、渡さんを驚かせてしまいました。

世界にまん延し続ける感染症に、
どう向き合っていくのか。

それは、世界を代表する抗菌剤を開発した
第一三共にこそ問われる姿勢でもあります。

薬をつくり、広く普及させるだけでなく。
たとえば、薬剤耐性菌の出現を抑制し、
効率的な治療に貢献すること。つまり、
薬のひとつ先の価値を提示し続けること。

小さな一粒に、大きな責任と情熱を込めて。



つくっているのは、希望です。
第一三共株式会社



Daiichi-Sankyo

www.daiichisankyo.co.jp



Daiichi-Sankyo

株主・投資家の皆様へ 株主通信 Vol.6

2010年3月期 第2四半期決算号 2009年4月1日~2009年9月30日

証券コード：4568

第一三共株式会社

Corporate Slogan

スローガン



Daiichi-Sankyo

つくっているのは、希望です。

私たちは、人間をこよなく愛する製薬会社です。

人間といういのちの輝き、いのちのすこやかさを愛し、そのためになることなら、どんな努力も惜しまない製薬会社です。

私たちは、どこよりも先進の集団でありたいと思います。

すぐれた研究力と開発力をみがき、つくれなかった薬をつくり、治せなかった病を治す。そのことに限りなく貢献できる会社になろうと思います。

私たちは、どこよりも誠実な集団でありたいとも思います。

医薬品づくりは、いのちにかかわる仕事。そのことを胸深く刻みつつ、誰からも、心から頼られるパートナーでありたいと思うのです。

人間の、かけがえのない一日一日をしっかりと守ること。

思いがけなく待ち受ける病に、すばやく立ち向かうこと。

私たち第一三共がつくっているものは、医薬品であると同時に、すべてのいのちをまばゆく照らす「希望」だと思うのです。

目次

1	ごあいさつ	P2
2	特集: 社長インタビュー	P3~4
3	話題の新薬	P5~6
4	研究開発の状況	P7~8
5	ランバクシー便り	P9
6	海外子会社紹介 現地レポート	P10
7	第2四半期連結決算の状況	P11~12
8	連結財務諸表の概要	P13
9	通期の見通し	P14
10	ズームアップ	P15
11	CSRへの取り組み	P16
12	企業インフォメーション	P17~18

01 | Message from the President

ごあいさつ

“Global Pharma Innovator= グローバル創薬型企業の実現”を目指して



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第一三共グループの企業理念は、「革新的な医薬品を継続的に創出し、提供することで、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する」ことです。そして、この企業理念に基づき、2015年ビジョンである「グローバル創薬型企業(Global Pharma Innovator)の実現」に向けて多くの布石を打ってまいりました。

具体的には、欧米の営業基盤を拡充し、待望の新薬である抗血小板剤「エフィエント」を発売し早期育成に努めております。

さらに経口抗Xa剤「エドキサバン」や抗インフルエンザウイルス薬CS-8958、あるいは癌領域等における研究開発を一層加速して取り組んでおります。

そして当社グループの新たな飛躍を目指して、昨年ランバクシー社グループを迎え入れました。

これまでの先進国のみならず、高い成長を遂げている新興国市場、あるいは新薬のみならず特許が切れた製品による事業展開も視野に入れた「複眼経営」を推進していく所存です。

本年は、第1期中期経営計画の最終年度であり、目標達成に向け全力を挙げて取り組んでおります。

さらに来年3月には第2期中期経営計画を発表し、株主還元策も含めご提示させていただく予定です。

今後とも株主・投資家の皆様のご支援をお願い申し上げます。

代表取締役社長兼CEO

庄田 隆



第一三共グループの企業理念は、「革新的な医薬品を継続的に創出し、提供することで、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する」ことです。そして、この企業理念に基づき、2015年ビジョンである「グローバル創薬型企業 (Global Pharma Innovator) の実現」に向けてさまざまな経営施策を推進しているところです。

Global グローバル

事業エリア拡大への挑戦

Pharma ファーマ

アンメットメディカル(未充足医療) ニーズへの挑戦

Innovator イノベーター

サイエンス・技術のイノベーション、
新たなビジネスモデル構築への挑戦

グローバル創薬型

企業を目指す ~Global Pharma Innovatorへの布石~

Q1

多くの日本の製薬企業がグローバル化を推進しています。第一三共も販売体制を強化するなどグローバル展開を加速しているようですが？

A

現在、世界の医薬品市場は約77兆円ですが、その中に占める日本市場の割合は10%にすぎません。こうした情勢を踏まえて、当社は「2015年ビジョン」という目標を掲げました。目指すは、「グローバル創薬型企業 (Global Pharma Innovator)」として、海外売上高比率を40%から60%以上に高める方針です。

ここ数年、特に力を入れてきたことは、従来の海外企業を通じて販売するビジネスから、研究開発から製造、販売まで自社で展開できる体制の構築です。

グローバルに約2千億円の売上を誇る高血圧症治療剤「オルメサルタン(一般名)」に加え、今年欧米にて発売した新製品、抗血小板剤「エフィエント」の売上を拡大していくために必要な基盤は整いました。

Q2

新薬の継続的創出が大変難しい環境の中、第一三共は研究開発パイプラインが充実していると言われていますが、特にどのような領域に力を入れていますか？

A

研究開発における重点疾患として、「血栓症」「癌」「糖尿病」「自己免疫疾患/関節リウマチ」の4領域を定めています。特に「血栓症」においては、今年発売した「エフィエント」に加え、現在最終段階の試験を行っている経口抗Xa剤「エドキサバン(一般名)」への期待も大きく、将来、この領域において世界トップクラスの企業となることを目指しています。



Q3

昨年、インド最大規模の製薬企業であるランバクシー社を傘下に収め、新たな経営戦略が注目されています。新興国市場の成長性に注目してのことですか？

A

第一三共はこれまで市場の大きい先進国市場における新薬ビジネスを行ってきました。しかしながら、近年、先進国市場は、大型新薬の特許切れ、昨今の経済危機や医療費抑制の動きを受け、安価な後発医薬品の使用が拡大するなど、成長は鈍化しつつあります。対照的に、BRICsをはじめとする新興諸国では高い経済成長を背景に、市場の急拡大が見込まれます。当社はこの市場の勢いを取り込み、世界中の多くの人々に、そのニーズに合った医薬品を届けることで持続的な成長を目指していきたいと考えています。

ランバクシー社グループは全大陸でビジネスを展開している世界のジェネリック企業トップ10に入る企業です。同社を傘下に収めたことで、これまで当社が未参入であったインド、アフリカ、西アジア、東欧などを含む56か国にネットワークが拡大しました。

一方、現在、同社インド2工場にて生産していた米国向け製品の輸入禁止措置が取られるなどの課題も抱えており、この解決に向け全力で取り組んでおります。

第一三共が創製した「純国産ノイラミニダーゼ阻害剤」

CS-8958は自社創製した抗インフルエンザウイルス薬で、長時間作用型のノイラミニダーゼ阻害剤(右ページ参照)です。インフルエンザウイルスの感染部位である気道において、直接作用を発揮する吸入治療剤で、1回の投与でインフルエンザウイルスに対する効果を示します。

第一三共の研究所で発見されて以来、国内では自社単独開発、海外ではオーストラリアのビオタ社と共同で導出活動を進めており、国内自社創製、自社生産(原薬・製剤)のインフルエンザ治療薬として大変注目が集まっています。

2009年度中に成人、小児・治療適応の同時申請を目指す

現在、2009年度中にインフルエンザ治療の適応取得の申請を行うべく、申請準備を鋭意進めています。フェーズ3試験において、CS-8958の単回吸入と既存薬(タミフル)の1日2回、5日間反復投与で比較を行ったところ、同等の効果が確認され、安全性についても問題となる有害事象は認められませんでした。さらに、既存薬では安全性面での注意が必要な小児適応に関しても良好な結果が

得られています。

第一三共では、成人のみならず、小児適応を含めたインフルエンザ治療の適応を2009年度中に行う予定です。

なお、小児適応については既存薬の使用制限のある10歳以上の未成年患者も対象となることから大きな期待が寄せられています。

予防適応に向けたフェーズ3試験を開始

予防に対する効果を確認するフェーズ3試験を2009年11月より開始しました。予防効果とは、インフルエンザウイルスに感染する前に服用することにより、仮に感染してもウイルスの体内での増殖を抑制して発症を抑制ないし症状を軽減させ、さらにウイルスの周囲への伝播を抑制できます。今回開始した試験では、A型またはB型のインフルエンザ感染症患者の同居家族を対象に、

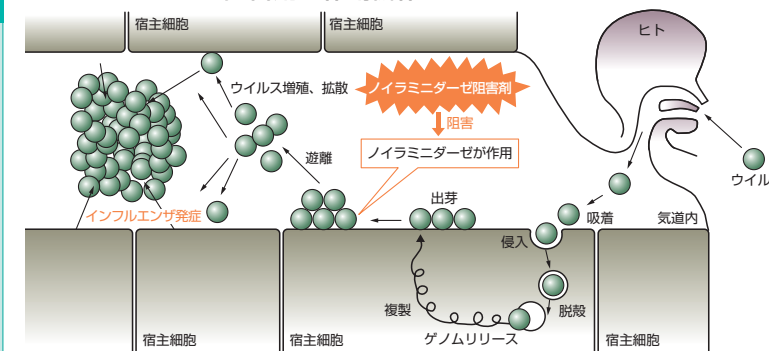
予防効果と安全性を確認します。試験の終了は2010年の夏ごろを予定しており、2010年度中の申請を予定しています。

適応	対象	ステージ	申請時期
インフルエンザ治療	小児/成人	申請準備中	2009年度中に申請予定
インフルエンザ予防	小児/成人	フェーズ3	2010年度中に申請予定

用語 ノイラミニダーゼ阻害剤とは? 説明

インフルエンザウイルスが生体の細胞から細胞へ感染・伝播していくために必要なウイルス表面に存在するノイラミニダーゼを阻害し、結果、増殖したインフルエンザウイルスが細胞外へ出て行くことを阻害します。ノイラミニダーゼはA、B型に共通であることからA型、B型インフルエンザ両方に効果があります。

ノイラミニダーゼ阻害剤の作用機作



月刊「化学」2009年10月号より引用

CS-8958の特徴

特 ① 徴

1回投与

での治療が可能です。CS-8958は、感染部位である気道に到達した後、そこに長く貯留します。既存薬が1日2回、5日間反復投与が必要であるのに対し、CS-8958は1回の吸入で持続的な効果が認められると期待しています。

特 ② 徴

吸入剤

のメリットとして、感染部位である呼吸器に薬剤が直接的にかつ高濃度で到達し薬効が現れること、さらには全身暴露による予期せぬ副作用を避けることが期待されます。

特 ③ 徴

小児

に対しても良好な治療効果が確認されました。2009年度中に成人のみならず、小児への治療適応申請も同時に行います。小児適応には既存薬の使用制限のある「10歳以上の未成年」も含まれます。

特 ④ 徴

予防効果

に対する試験を2009年11月より開始しました。A型またはB型のインフルエンザ感染症患者の同居家族を対象にした試験により予防効果を確認します。

特 ⑤ 徴

新型インフルエンザウイルスへの効果

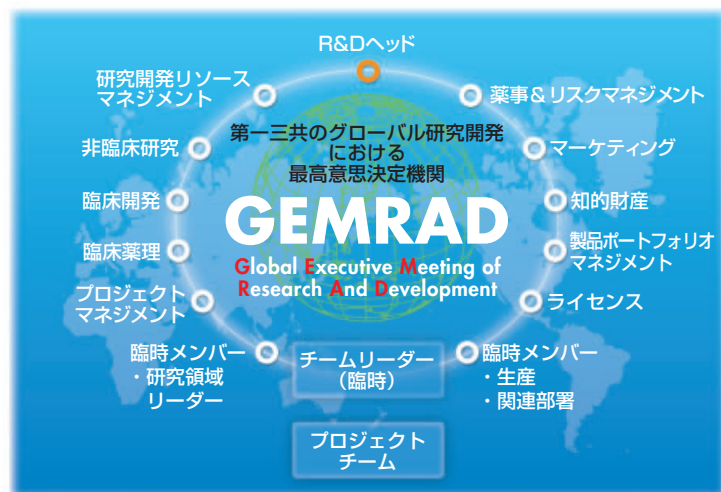
非臨床試験で、新型インフルエンザウイルス、鳥インフルエンザウイルスおよびタミフル耐性インフルエンザウイルスに対する効果も確認されています。

04 Current Status of Research and Development

研究開発の状況

グローバルな視点での迅速で的確な意思決定を図るために～ GEMRAD

医薬品の研究開発は、グローバル市場を視野に入れた迅速で的確な意思決定が重要です。第一三共では、機能や地域の枠組みを超えた研究開発における最高意思決定機関としてGEMRAD (Global Executive Meeting of Research And Development) を設置しています。GEMRADのメンバーは、研究開発本部長の廣川と第一三共ファルマデベロップメントのDr.グレン・ゴームリーを議長に、研究開発部門のみならず、国内外の営業、ライセンス、薬事や製品ポートフォリオを担当する部門など、多くの専門機能の責任者によって構成されており、研究開発から販売までも見据えたあらゆる角度から総合的にプロジェクトのGo/No-Goについて意思決定を行っています。



Dr.グレン・ゴームリー (Dr. Glenn Gormley) の紹介

Dr.グレン・ゴームリーは2009年4月に第一三共ファルマデベロップメント(米国子会社DSIの開発部門)の社長に就任し、現在GEMRADのCo-Chairpersonを務めています。これまで、欧米の大手製薬会社にて副社長や開発責任者を経て、直近ではバイオベンチャー企業の社長を務めるなど、製薬業界における研究開発分野のリーダーの1人です。

～Dr.ゴームリーよりひとこと～

医薬品の研究開発は全世界的に生産性低下が危ぶまれています。真のグローバル視野と強みを生かした領域戦略に基づき適切なリソース配分を推進し、各人が革新的取り組みをすることによってGlobal Pharma Innovatorとしての成功を実現するものと信じています。豊富な人材と魅力的なパイプラインを持つ第一三共の高い潜在力に大変期待しており、グローバル市場でのプレゼンスを高めていきたいと考えています。



開発中の主な品目 (フェーズ3、承認申請中の品目)

領域	開発品目	目標とする適応など	開発地域	ステージ※
循環器	エドキサバン (DU-176b)	心房細動に伴う心原性脳梗塞の予防／ 静脈血栓塞栓症の予防	米欧日	フェーズ3
	プラスグレル	急性冠症候群	米欧日	フェーズ3
	オルメサルタン3剤配合剤 (CS-8635)	高血圧症	米欧	承認申請中
	オルメサルタン配合剤 (CS-866AZ)	高血圧症	日	承認申請中
感染症	レボフロキサシン注	細菌感染症	日	承認申請中
	CS-8958	インフルエンザ	米欧日	フェーズ3
骨・関節	デノスマブ (AMG162)	骨粗鬆症	日	フェーズ3
	ロキソニンゲル	変形性関節症／筋肉痛／外傷後の腫脹・疼痛	日	承認申請中
その他	ヒトグレリン (SUN11031)	神経性食欲不振症／カヘキシア	米欧日	フェーズ3
	メマンチン (SUN Y7017)	アルツハイマー型認知症	日	フェーズ3
	シロドシン	前立腺肥大に伴う排尿障害改善	中国	承認申請中

青字は現在の優先プロジェクト
※グローバルで開発している製品については最も進んだステージのみ記載

(2009年11月現在)

Topics

最優先プロジェクト「エドキサバン」

エドキサバンは、血管の中で血液凝固に重要な役割を果たすXa因子を直接阻害する、1日1回投与が可能な経口抗Xa剤(抗凝固剤)です。肺塞栓症や外科手術後の血栓塞栓症など、静脈血栓症の予防を目的に開発しています。エドキサバンの今まで実施してきたフェーズ2までの試験において、経口吸収性が良好で、既存の抗凝固剤(ワルファリン、ヘパリン)と比べ、薬効発現(抗血栓作用)と副作用(出血リスク)の間に大きな乖離が認められており、比較的投与のコントロールがしやすく、使用性に優れていることが期待されています。

現在、心房細動(AF)による血栓塞栓症の予防効果の適応取得を目指し、世界46か国、16,500名規模でのグローバルフェーズ3試験「EngageAF(エンゲージAF)」を行っており、さらにDVT(深部静脈血栓症)・PE(肺塞栓症)患者にお

ける血栓塞栓症の2次予防を目的としたグローバル試験を年内に開始する予定です。

経口抗Xa剤の領域は、他社との開発競争が非常に激しい状況ですが、当社もベストインクラスの製品を目指し、プラスグレルに次ぐ大型新薬の候補として期待しています。

目標適応症	フェーズ3 試験	
AF 心房細動の血栓塞栓症予防	米欧 日本	2008年11月に開始
VTE 術後血栓塞栓症の予防	日本	2009年3月に開始
VTE DVT・PE患者における 血栓塞栓症の2次予防	米欧 日本	2009年中に開始予定

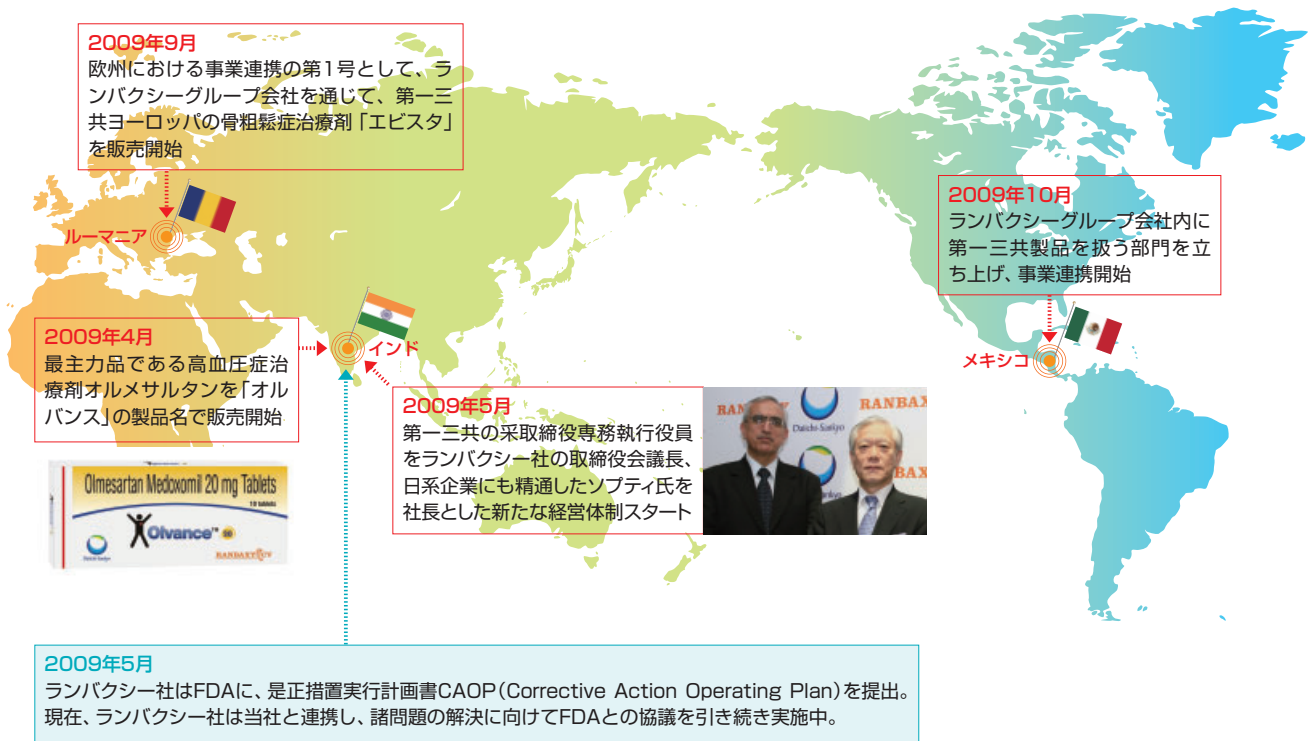
05 Focus on RANBAXY

ランバクシー便り - No. 1



「複眼経営、ハイブリッド経営」への着実な歩み

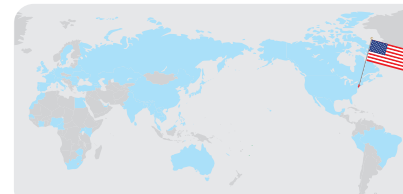
第一三共グループの新たな飛躍を目指して、ランバクシー社グループを迎え入れて早くも1年が経過しました。現在、FDA（米国食品医薬品庁）より同社インド2工場にて生産していた米国向け製品の輸入禁止措置が取られるなどの課題も抱えておりますが、先進国市場と新興国市場の双方をカバーし、あらゆる市場の変化やニーズに対応し得る「複眼経営、ハイブリッド経営」を実現するために両社の協業は着実に歩み始めています。具体的には、経営体制の強化をはじめとして、研究開発、生産、販売といった機能ごとにシナジーを追求していきます。



今後もランバクシー社関連につきましては引き続きご報告していきます。

06 Report

海外子会社紹介 現地レポート：第一三共Inc. - New Jersey Parsippany Office



第一三共グループは現在、世界56か国に自社グループ拠点を持ち、事業活動を行っています。
今回は、世界最大の医薬品市場である米国において、自社単独販売に向けた取り組みが完了し、待望の新製品である抗血小板剤「エフィエント」を発売したばかりの第一三共Inc. (DSI)をご紹介します。

世界最大の医薬品市場である米国においては、ニュージャージー州（パーシパニー、エジソン）を拠点にDSIが研究開発および営業活動を行っています。



Joseph P. Pieroni
Daiichi Sankyo Inc. 社長 兼 CEO

当社ではオルメサルタンとの合剤として、利尿剤との配合剤ベニカーHCTやカルシウム拮抗剤アムロジピンとの配合剤エイゾールを発売しており、さらなる拡大が期待されます。

エフィエント、専門医を中心とした着実な情報提供活動

オルメサルタンに次ぐ期待の新製品として、エフィエントを2009年8月に発売しました。現在、パートナーであるイライリ社と共同でPCI施設を持つ病院や循環器専門医等に対し、情報提供活動を行っています。目標とする病院での採用も徐々に進んでおり、この着実な活動こそが将来のエフィエントの売上拡大に繋がるものであると期待しています。



2009年8月発売のエフィエント

DSI設立より、わずか3年間で営業力が倍増

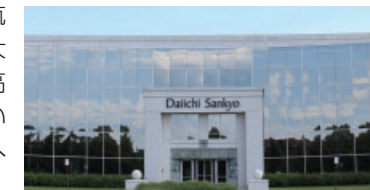
DSIは、ニュージャージー州（パーシパニー、エジソン）を拠点に研究開発および営業活動を行っています。
経営統合後の2006年3月にDSIが設立された当初の医薬情報担当者（MR）は、約750名。当時、グローバル主力製品である「オルメサルタン（製品名：ベニカー）」は他社と共同で販促活動を行っていましたが、新製品発売ならびに自社販売体制の構築に向け段階的にMRを増員し、現在は約1,800名のMRを有する会社に成長しました。

米国大手製薬メーカーとシェアを争うベニカー、No.2を目指して

ベニカーは同種の高血圧症治療剤市場では7番手の製品としてスタートしました。以来、降圧効果の高い製品力訴求や競合製品に負けないトップクラスの営業活動により売上を拡大し、現在では新規処方箋シェア2位に迫る製品へと成長しています。
米国では1剤で良好な血圧コントロールが難しい患者も多く、異なるタイプの高血圧症治療剤2剤以上を組み合わせたより効果の優れた配合剤のニーズも高まっています。

循環器領域でのトップレベルの企業を目指す

このように、DSIでは高血圧症治療剤をはじめとする数多くの付加価値の高い循環器領域製品を有しています。さらに、開発中の品目にある経口抗Xa剤エドキサバンも大型新製品として期待も高く、DSIは、同領域において米国を代表する企業への成長を目指しています。



第一三共Inc. - New Jersey Parsippany Office

07 Financial Review

第2四半期連結決算の状況

業績および概況

売上高 ▶ **4,705億円** (前年同期比 **15.8%** 増)

医薬品市場を取り巻く環境は引き続き厳しい状況が続く、為替も円高傾向で推移したものの、2008年10月に子会社化したランバクシー社の売上寄与、主力製品オルメサルタンなどの伸長により増収となりました。また、抗血小板剤エフィエントについても、英国、ドイツなどに続き、2009年8月に米国にて販売を開始し、順調に推移しております。

◇国内医療用医薬品事業

売上高 ▶ **2,132億円** (前年同期比 **4.0%** 増)

メバロチンは引き続き売上が減少したものの、オルメテック、ロキソニンブランドなどが拡大し、また2009年7月に発売したクラビット高用量が寄与し、増収となりました。



オルメテック

クラビット高用量

ロキソニンブランド

国内主要医療用医薬品売上高

(単位: 億円)

	2008年度 第2四半期累計	2009年度 第2四半期累計	前同増減
オルメテック 【高血圧症治療剤】	313	388	75
メバロチン 【高コレステロール血症治療剤】	266	249	△18
クラビット 【合成抗菌剤】	196	214	18
ロキソニン 【消炎鎮痛解熱剤】	189	237	48
オムニバーク 【造影剤】	146	147	1
アーチスト 【高血圧症治療剤】	110	119	10

◇海外医療用医薬品事業

売上高 ▶ **2,321億円** (前年同期比 **33.0%** 増)

北米の売上高 ▶ **1,087億円** (前年同期比 **13.3%** 増)

円高傾向に伴う為替の影響があったものの、ベニカー／ベニカーHCT、エイゾール、貧血治療剤ヴェノファーなどが引き続き伸長していることに加え、ランバクシー社の売上寄与もあり、増収となりました。



ベニカー／ベニカーHCT

欧州の売上高 ▶ **469億円** (前年同期比 **39.5%** 増)

ランバクシー社の売上寄与やオルメテック／オルメテックプラス、セビカーが引き続き伸長したため、増収となりました。



セビカー

グローバル製品売上高

(単位: 億円)

	2008年度 第2四半期累計	2009年度 第2四半期累計	前同増減
オルメサルタン※ 【高血圧症治療剤】	1,046	1,154	108
レボフロキサシン 【合成抗菌剤】	493	433	△60
プラバスタチン 【高コレステロール血症治療剤】	319	297	△22

※オルメテック、オルメテックプラス、ベニカー、ベニカーHCT、エイゾール、セビカー、オルバンス

インド及びその他の売上高 ▶ **510億円** (前年同期比 **360.6%** 増)

ランバクシー社のインドなどにおける売上が寄与しました。その他オルメサルタンなどの伸長により増収となりました。



オルバンス

輸出売上高及びロイヤリティ収入 ▶ **254億円** (前年同期比 **24.8%** 減)

円高の影響やレボフロキサシンの輸出が減少しました。

◇ヘルスケア事業

売上高 ▶ **230億円** (前年同期比 **4.1%** 減)

総合感冒薬ルルアタックEXをはじめとする新製品が好調に推移したものの、改正薬事法施行に伴い、ガスター10などの第1類医薬品の売上が減少しました。

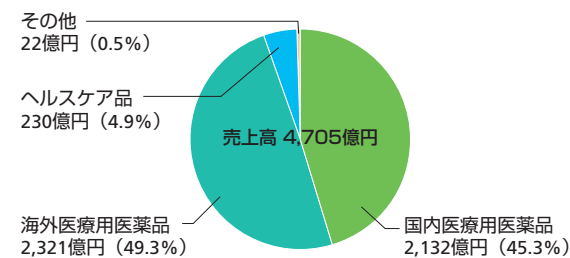


新ルルAゴールド

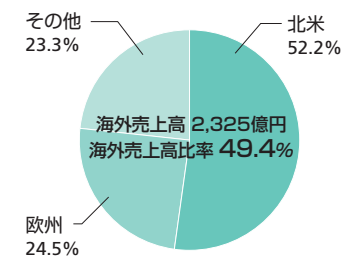
ルルアタックEX

新三共胃腸薬プラス

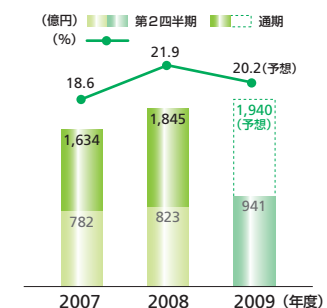
事業別売上高構成比



海外売上高構成比



研究開発費及び研究開発比率



08 Financial Statements

連結財務諸表の概要

四半期連結貸借対照表 (要旨)

(単位: 億円)

科目/期別	当第2四半期末 (2009年9月30日現在)	前期末 (2009年3月31日現在)
● 資産の部		
流動資産	7,714	7,835
固定資産	6,888	7,110
資産合計	14,603	14,945
● 負債の部		
流動負債	3,700	5,085
固定負債	2,100	974
負債合計	5,800	6,059
● 純資産の部		
株主資本	8,849	8,944
資本金	500	500
資本剰余金	1,051	1,051
利益剰余金	7,443	7,538
自己株式	△145	△145
評価・換算差額等	△305	△314
新株予約権	30	23
少数株主持分	227	231
純資産合計	8,802	8,886
負債純資産合計	14,603	14,945

四半期連結損益計算書 (要旨)

(単位: 億円)

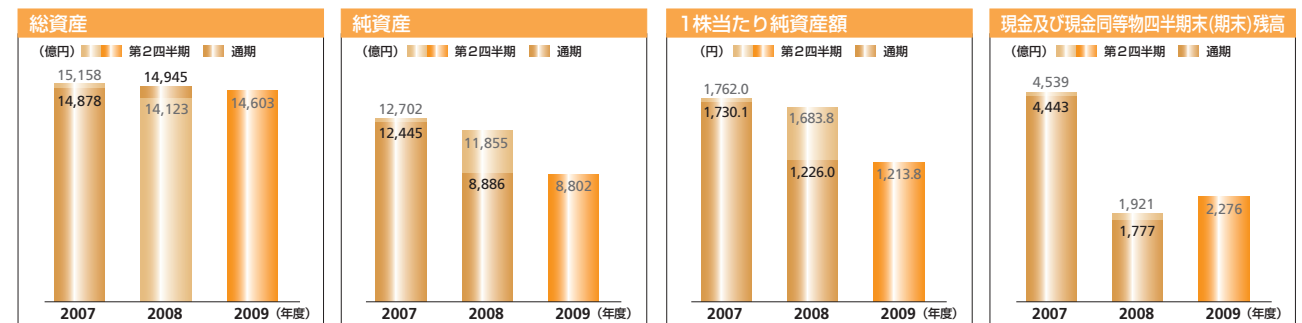
科目/期別	当第2四半期 自 2009年4月1日 至 2009年9月30日	前第2四半期 自 2008年4月1日 至 2008年9月30日
売上高	4,705	4,063
売上原価	1,372	976
売上総利益	3,333	3,086
販売費及び一般管理費	2,824	2,470
営業利益	508	616
営業外収益	148	61
営業外費用	133	80
経常利益	522	596
特別利益	23	8
特別損失	9	38
税金等調整前四半期純利益	536	565
四半期純利益	186	339

四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位: 億円)

科目/期別	当第2四半期 自 2009年4月1日 至 2009年9月30日	前第2四半期 自 2008年4月1日 至 2008年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	395	187
投資活動によるキャッシュ・フロー	549	△1,980
財務活動によるキャッシュ・フロー	△420	△710
現金及び現金同等物に係る換算差額	△26	△19
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	498	△2,522
現金及び現金同等物の期首残高	1,777	4,443
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,276	1,921

連結財務ハイライト



09 Outlook for FY 2009

通期の見通し

2010年3月期 通期連結業績予想

売上高	▶ 9,600億円	(1,179億円増加) (前期比 14.0%増)
営業利益	▶ 960億円	(72億円増加) (前期比 8.0%増)
経常利益	▶ 690億円	(139億円増加) (前期比25.1%増)
当期純利益	▶ 400億円	(2,554億円増加) (-)

- 第2四半期累計期間においては、米国子会社における主力製品の売上が拡大し、販売促進費などの経費の発生が第3四半期以降にずれ込んだことや為替差損が改善したことなどにより、2009年7月31日に公表した当該期間における業績予想に対して売上、利益ともに上回りました。
- 通期においては、ランバクシー社の為替差損が、同社の決算期末(12月末)の為替相場次第で変動することなどを勘案し、当初公表している業績予想から変更はありません。

株主還元について

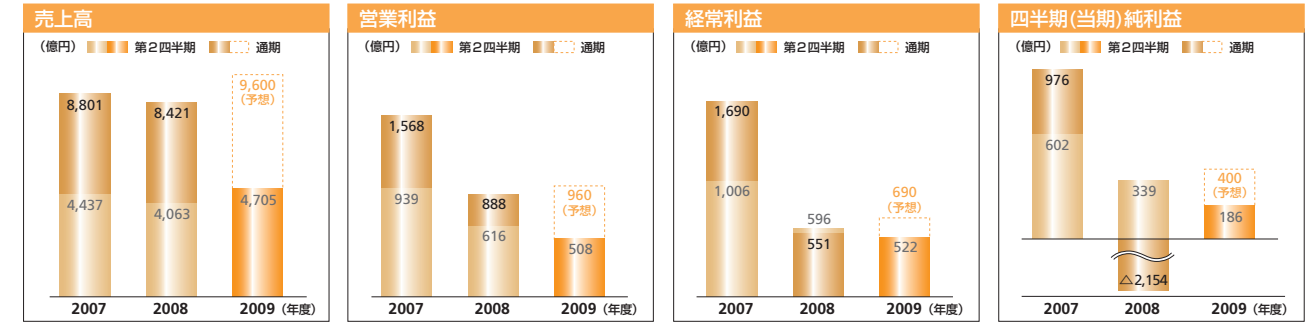
第1期中期経営計画(2007~2009年度)の株主還元に関する方針として、3か年で得た純利益相当額をすべて配当、あるいは自己株式取得に充当するという「総還元性向100%」を目標にしています。

2009年度の配当につきましては、業績予想ならびに今後の戦略投資や借入金返済などの資金計画を勘案し、1株当たり年60円の配当を予定しています。

なお、第1期中期経営計画期間における3か年の配当総額(2009年度分は見込値)は約1,500億円です。また、自己株式の取得総額は約800億円(2,500万株)で、配当との合計は約2,300億円となり、ランバクシー社の株式取得に伴う純利益への影響を除外した場合でも「総還元性向100%」を達成できる見込みです。

1株当たりの配当金

	中間	期末	年間
2007年度	35円	35円	70円
2008年度	40円	40円	80円
2009年度	30円	30円(予定)	60円(予定)



ルルの新しいイメージキャラクターに石川遼選手を起用

第一三共ヘルスケアでは、1951年の発売から皆様に広く親しまれている総合かぜ薬「ルル」ブランドの第20代イメージキャラクターに初めて男性著名人として、プロゴルファーの石川遼選手を起用しました。

「ルル」は、発売以来58年間「家族みんなの常備薬」として多くの方に親しまれてきました。大空真弓さん、松坂慶子さん、大竹しのぶさん、三田寛子さん、石田ひかりさん、最近の木村佳乃さんなど各時代を代表する女優がCMイメージキャラクターを務めてきましたが、年齢、性別を問わず愛されるパーソナリティーに着目して、ゴルフ界にとどまらず日本スポーツ界の未来を担う存在として活躍している石川遼選手に今回初めて男性キャラクターとして登場いただきました。



ルルアタックEXのイメージキャラクターに天海祐希さんを起用



また、このたび新発売したルルアタックEXは、トラネキサム酸とイブプロフェンを同時配合し、「つばを飲み込むのもつらい」のどの痛みや発熱を伴うかぜに優れた効果を発揮します。

イメージキャラクターとしては、ドラマや映画で活躍している女優の天海祐希さんを起用し、先進性に富んだCMを展開しております。

今後も、ルルを末永くご支援いただきますようお願いいたします。

第一三共グループは、CSR (Corporate Social Responsibility=企業の社会的責任) を経営の重要課題と位置づけ、高い倫理観と社会的良識を持ち「経済的価値」のみならず「社会的価値」「人間的価値」との調和が取れた企業価値の向上を重視しています。

その結果として社会から信頼され、存続を望まれる企業としてあり続けることが、「企業の社会的責任」であり、経営そのものと考えています。

社会貢献活動

各国事業拠点における社会貢献活動を積極的に推進しています。

地域住民として、各事業拠点での地域の文化や慣習を尊重し、地域から求められる社会的要請や期待に基づいて、高い倫理観と社会的良識を持ってその地域に応じた特色ある活動を行っています。

具体的には以下のような取り組みを実施しています。

- 第一三共プロファーマにおいて、平塚市内の小学生約50名を招き、「第1回子供かがく教室」を開催しました。
- 米国第一三共Inc.では、環境に優しいバイオ燃料を利用する移動診療車の運営資金を支援しています。
- 欧州では、NGOを通じたアフリカでの井戸掘りの事業助成などを行っています。



環境経営

グローバルに事業展開する企業体として、地球環境への配慮が社会的責務であることを認識し、法令遵守はもとより、自主的かつ積極的に、その保全と改善を推進しています。

2009年度は以下の環境経営方針を掲げています。

1. 「地球温暖化防止」への取り組みの推進

- 国内・海外のすべての事業活動においてCO₂排出量を削減し、地球温暖化防止に貢献する。

2. 「循環型社会」への取り組みの推進

- 廃棄物管理のコンプライアンスを徹底する。
- 3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進し、廃棄物の最終処分率を低下させ循環型社会の実現に貢献する。

12 Company Information

企業インフォメーション (2009年9月30日現在)

事業所

本社：東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号
 主要な国内事業拠点(第一三共グループ)
 支店：札幌、東北(宮城県)、千葉、埼玉、横浜、
 北関東(東京都)、甲信越(東京都)、東海(愛知県)、
 京都、北陸(石川県)、大阪、神戸、中国(広島県)、
 四国(香川県)、九州(福岡県)
 ※上記の他、全国主要都市に営業所を設けております。
 研究所：品川(東京都)、葛西(東京都)、平塚(神奈川県)、
 袋井(静岡県)、群馬、大阪
 工場：秋田、小名浜(福島県)、平塚(神奈川県)、
 小田原(神奈川県)、静岡、大阪、高槻(大阪府)

主要な国内グループ会社

会社名	主要な事業内容
第一三共プロファーマ株式会社	医薬品の製造
第一三共RDアソシエ株式会社	グループの研究開発サポート業務
第一三共ビジネスアソシエ株式会社	グループのビジネスサポート業務
第一三共ハピネス株式会社	グループのビジネスサポート業務
第一三共ロジスティクス株式会社	物流及び関連業務
第一三共ケミカルファーマ株式会社	医薬品の製造
第一三共ヘルスケア株式会社	ヘルスケア品の開発・製造・販売
アスピオファーマ株式会社	医薬品の研究開発・製造・販売

海外グループ企業

- 1 イギリス** 第一三共デベロップメント LTD. 医療用医薬品の開発
第一三共UK LTD.* 医薬品の販売
- 2 ドイツ** 第一三共ヨーロッパ GmbH グループ統括/医薬品の開発・製造・販売
第一三共ドイツ GmbH* 医薬品の販売
U3ファーマ GmbH 医療用医薬品の研究
- 3 フランス** 第一三共アルトキルヒ SARL* 医薬品原料等の製造
第一三共フランス S.A.S.* 医薬品の販売
- 4 オーストリア** 第一三共オーストリア GmbH* 医薬品の販売
- 5 ベルギー** 第一三共ベルギー N.V.-S.A.* 医薬品の販売
- 6 スイス** 第一三共スイス AG* 医薬品の販売
- 7 スペイン** 第一三共スペイン S.A.* 医薬品の販売
- 8 イタリア** 第一三共イタリア S.p.A.* 医薬品の販売
- 9 オランダ** 第一三共オランダ B.V.* 医薬品の販売
- 10 ポルトガル** 第一三共ポルトガル LDA.* 医薬品の販売
- 11 トルコ** 第一三共トルコ Ltd. Şti.* 医薬品の販売
- 12 アイルランド** 第一三共アイルランド Ltd.* 医薬品の販売
- 13 中国** 第一三共製薬(北京)有限公司 医薬品の開発・製造・販売
香港第一三共有限公司 医薬品のマーケティング支援
第一三共製薬(上海)有限公司 医薬品の開発・製造・販売
- 14 韓国** 韓国第一三共株式会社 医薬品の販売
- 15 タイ** 第一三共タイ LTD. 医薬品・化成品の輸入・販売・仲介
- 16 台湾** 台湾第一三共股份有限公司 医薬品の製造・販売
- 17 インド** 第一三共インド Ltd. 医薬品の開発
ランバクシー・ラボラトリーズ Ltd. グループ 医薬品の研究開発・製造・販売等
*なお、同社グループ会社の記載は省略しています。
- 18 アメリカ** 第一三共 Inc. 医薬品の研究・開発・販売
ルイトボルド・ファーマシューティカルズ Inc. 医薬品および動物薬の製造・販売
- 19 ブラジル** 第一三共ブラジル LTDA 医薬品の製造・販売
- 20 ベネズエラ** 第一三共ベネズエラ S.A. 医薬品の製造・販売

※第一三共ヨーロッパ GmbH グループ

商号

第一三共株式会社
(DAIICHI SANKYO COMPANY, LIMITED)

資本金

500億円

事業内容

医療用医薬品の研究開発、製造、販売など

従業員数

約29,270名(第一三共グループ)

役員

代表取締役会長	森田 清	社外取締役	仁平 窓雄
代表取締役社長	庄田 隆	社外取締役	西川 善文
取締役	高田 龍三	社外取締役	矢部丈太郎
取締役	松田 等	社外取締役	沖本 隆史
取締役	栗田 健	常勤監査役	高柳 輝夫
		常勤監査役	永田 光
		社外監査役	島田 馨
		社外監査役	樋口 公啓

株主メモ

事業年度

4月1日～翌年3月31日

期末配当金受領株主確定日

3月31日

中間配当金受領株主確定日

9月30日

定時株主総会

毎年6月

単元株式数

100株

株主名簿管理人

特別口座 口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社

証券代行部

〒137-8081

東京都江東区東砂七丁目10番11号

TEL0120-232-711(通話料無料)

上場証券取引所

東京証券取引所・大阪証券取引所・

名古屋証券取引所 各第1部

公告の方法

電子公告により行う

公告掲載URL

<http://www.daiichisankyo.co.jp/>

(ただし、電子公告によることができない事故、

その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経

済新聞に公告いたします)

お知らせ

配当金計算書について

本年から、配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「配当金領収証」により配当金をお受取りになられる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取りになった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

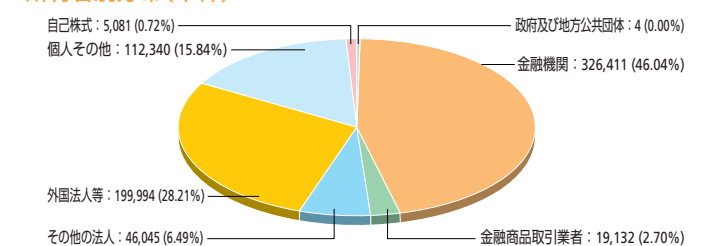
株式の状況

発行可能株式総数	2,800,000,000株
発行済株式の総数	709,011,343株 (自己株式5,079,186株を含む)
株主数	103,586名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	50,589	7.14
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	44,940	6.34
日本生命保険(相)	37,659	5.31
ザチェースマンハッタンバンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカUNT	20,447	2.88
(株)三井住友銀行	13,413	1.89
資産管理サービス信託銀行(株)(証券投資信託口)	9,388	1.32
東京海上日動火災保険(株)	9,289	1.31
(株)みずほコーポレート銀行	8,591	1.21
みずほ信託銀行(株)(退職給付信託 みずほコーポレート銀行口)	8,497	1.20
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口9)	8,262	1.17
合計	211,079	29.77

所有者別分布(千株)



株価の推移(月足)

